

工種	平石張工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

5.6 平石張工

1. 適用

遊歩道、歩道、広場等の舗装・床張り、階段及び壁張りにおける平石張工に適用する。

2. 数量算出項目

平石張の面積を区分毎に算出する。

3. 区分

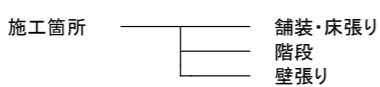
区分は、施工箇所、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	規格	単位	数量	備考
平石張		○	○	m ²		

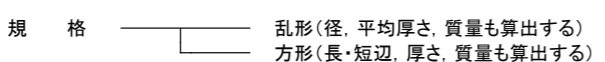
(2) 施工箇所

施工箇所による区分は、以下のとおりとする。



(3) 規格

規格区分は、以下のとおりとする。



現行どおり

1. 適用

一般土木及び公園工事で施工する遊歩道、歩道、広場等の舗装・床張り、階段（踏面幅1,200mm以下、蹴上高400mm以下）及び壁張りにおける平石張工に適用する。

作業区分 形状区分	舗装・床張り	階段	壁張り
乱形石	φ50～600 mm程度 平均厚さ10～60 mm程度 質量15 kg程度まで	φ80～400 mm程度 平均厚さ15～40 mm程度 質量6 kg程度まで	φ60～300 mm程度 平均厚さ15～50 mm程度 質量7 kg程度まで
方形石	短辺100 mm以上 長辺1,500 mm以下 厚さ25～120 mm 質量60kg まで	短辺100 mm以上 長辺920 mm以下 厚さ40～170 mm 質量130kg まで	短辺140 mm以上 長辺600 mm以下 厚さ30～120 mm 質量60 kg まで

(注) 質量は、石材1枚当りである。

2. 数量算出項目

平石張、平石（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

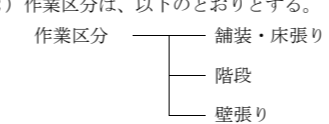
区分は、規格、作業区分、平石の形状区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

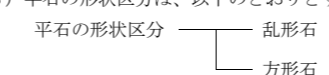
項目	区分	規格	作業区分	平石の形状区分	単位	数量	備考
平石張		×	○	○	m ²		
平石（材料費）		○	○	○	m ²		

注) 1. 平石（材料費）は、乱形石については径・平均厚さ・質量を、方形石については短辺・長辺・厚さ・質量も算出する。

(2) 作業区分は、以下のとおりとする。



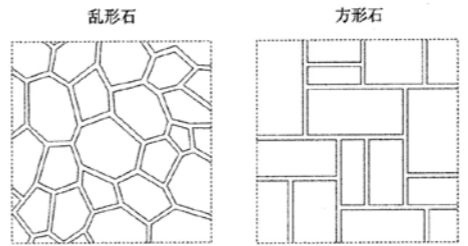
(3) 平石の形状区分は、以下のとおりとする。



4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

5. 参考図



積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

工 種	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

6.2 補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)

1. 適用

補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)においてコンクリート製壁面材(帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む)によるものに適用する。

2. 数量算出項目

補強土壁工の施工面積, 補強土壁基礎を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
補強土壁	○		m ²		
補強土壁基礎	○		m		

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 補強土壁の内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	規格	単位	数量	備考
壁面材	○		m ²		注)2
補強材	○		m		
補強土壁工盛土	○		m ³		
天端コンクリート	○		m ³		
天端鉄筋	○		t		
天端型枠	×		m ²		
足場	○		掛m ²		
暗渠排水管据付	○		m		
フィルター材	○		m ³		

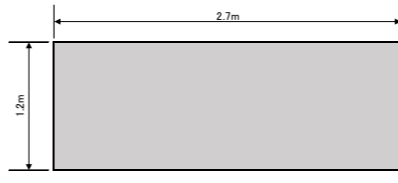
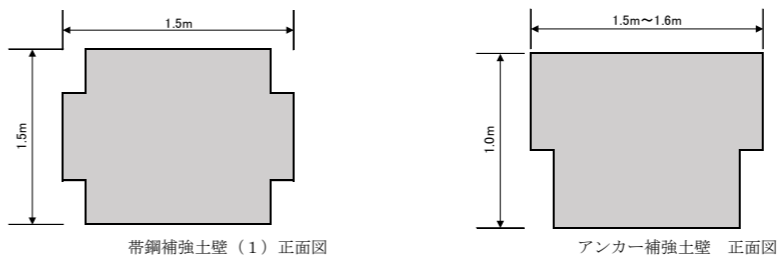
注)1. 補強土壁面積に対するものとする。
2. 壁面材種類(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)について備考欄に明記する。

現行どおり

帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工 種	帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
	帯鋼補強土壁(1)	帯鋼補強土壁(2)	
標準壁面形状	十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ)	長方形の1.2m×2.7m (高さ×長さ)	1.0m×1.5~1.6m (高さ×長さ)
補強材	ストリップ幅:60~80mm	ストリップ幅:80mm	SS400規格、SS490規格
壁面材強度	コンクリート設計基準強度: 度:21~30N/mm ²	コンクリート設計基準強度: 度:30N/mm ²	コンクリート設計基準強度: 30N/mm ² , 40N/mm ²
盛土	1層仕上り高さ:25cm	1層仕上り高さ:30cm	1層仕上り高さ:25cm

参考図. 各工種の標準壁面形状



(注)1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上段部(ハーフ)、最下段部(ハーフ)、コーナ一部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 数量算出項目

補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材(材料費)、補強材取付、補強材(材料費)、まき出し・敷均し、締固めの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、工法区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	工法区分	単位	数量	備考
補強土壁壁面材組立・設置	×		○	m ²		
補強土壁壁面材(材料費)	○		×	m ²		
補強材取付	×		○	m		
補強材(材料費)	○		×	m		
まき出し・敷均し、締固め	×		○	m ³		

工種	補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正	
		現行	

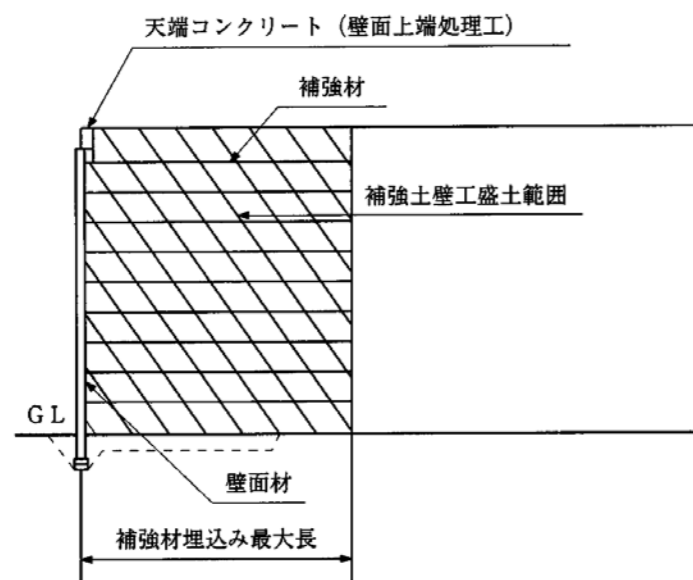
現行	改正	備考
----	----	----

(2) 補強土壁基礎の内訳は下記の項目で算出する。

項目	区分	規格	単位	数量	備考
基礎砕石	○		m ³		
基礎コンクリート	○		m ³		
基礎型枠	×		m ²		

(注) 補強土壁基礎に対するものとする。

5. 参考図(標準断面図)



補強土壁工標準断面図

(注) 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、第1編、第2章土工により算出するものとする。

1-6-4

(2) 工法区分は、以下のとおりとする。

- 工法区分
 - 帯鋼補強土壁(1)
 - 帯鋼補強土壁(2)
 - アンカー補強土壁

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
コンクリート(天端コンクリート部)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(天端コンクリート部)	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
鉄筋工(天端コンクリート部)	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照
暗渠排水管	m		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
フィルター材	m ³		「第3編(道路編)2.1排水構造物工」参照
コンクリート(補強土壁基礎部)	m ³		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照
型枠(補強土壁基礎部)	m ²		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照
基礎材工(補強土壁基礎部)	m ²		「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

現行どおり

積算上の注意事項

(控え頁)

工種	旧橋撤去工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

10.2 旧橋撤去工

1. 適用

鋼橋鈹桁(合成桁及び非合成桁)の高欄撤去から舗装版取り壊し、床版分割(ブロック施工)のための1次破碎と撤去及び桁材撤去と床版2次破碎までの一連作業による撤去工に適用する。
高欄撤去及びアスファルト舗装版破碎・積込は、RC橋及びPC橋にも適用することができる。

2. 数量算出項目

高欄延長、舗装版・床版の体積、桁材の鋼材質量を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	単位	数量	備考
高欄撤去		m		注)1
アスファルト舗装版破碎・積込		m ³		対象数量はアスファルト舗装版のみの体積
床版1次破碎・撤去		m ³		対象数量は床版の体積 注)2
床版1次及び2次破碎・撤去		m ³		対象数量は床版の体積 注)2
桁1次切断・撤去		t		
桁1次及び2次切断・撤去		t		
殻運搬処理		m ³		アスファルト塊運搬の対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積 コンクリート殻運搬の対象数量は、床版の体積
現場発生品運搬		回		注)4

注)1. 高欄撤去とは、鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ製の高欄であり、コンクリート高欄(壁高欄含む)は除く。なお、高欄延長は、両車線の総撤去延長である。
2. 床版1次破碎・撤去及び床版1次及び2次破碎・撤去において、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄(壁高欄含む)は、対象数量に含めて算出する。
3. 足場・防護・ベント等必要な場合は、「第3編(道路編)4章鋼橋上部工 4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」による。
4. 現場発生品の運搬をする場合は、質量(t)についても算出する。
なお、機種の選定にあたっては、「第1編(共通編)第2章工事費の積算③現場発生品及び支給品の運搬」による。

1-10-3

1. 適用

鋼橋鈹桁(合成桁及び非合成桁)の高欄撤去から舗装版とりこわし、床版分割(ブロック施工)のための1次破碎と撤去及び桁材撤去と床版2次破碎までの一連作業による撤去工に適用する。
高欄撤去およびアスファルト舗装版破碎・積込はRC及びPC橋にも適用することができる。
なお、横断歩道橋撤去、床版打換え時のブロック施工等には適用しない。

2. 数量算出項目

高欄撤去、アスファルト舗装版破碎・積込み、床版1次破碎・撤去、床版1次及び2次破碎・撤去、桁1次切断・撤去、桁1次及び2次切断・撤去、アスファルト塊運搬、床版運搬の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、クレーン規格、相吊クレーンの有無、相吊クレーン規格、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
高欄撤去		×	×	×	×	×	m		注)1
アスファルト舗装版破碎・積込み		×	×	×	×	×	m ³		注)2
床版1次破碎・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注)3
床版1次及び2次破碎・撤去		×	×	×	×	×	m ³		注)3
桁1次切断・撤去		○	○	○	×	×	t		
桁1次及び2次切断・撤去		○	○	○	×	×	t		
アスファルト塊運搬		×	×	×	○	○	m ³		注)4
床版運搬		×	×	×	×	○	m ³		注)5

注)1. 高欄撤去とは、鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ製の高欄であり、コンクリート高欄(壁高欄含む)は除く。なお、高欄延長は、両車線の総撤去延長である。
2. 対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積とする。
3. 対象数量は、床版の体積とする。また、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄(壁高欄含む)は、対象数量に含めて算出する。

(つづく)

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

工種	旧橋撤去工
担当	8092国総研

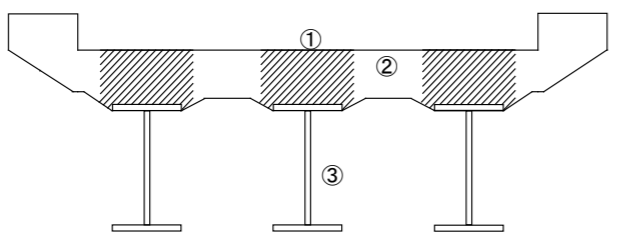
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

(参考)

ブロック施工（床版分割施工）とは、コンクリート殻を桁下に落とすことができず、ある程度のブロック状に1次破碎後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて、撤去する工法である。

なお、「床版1次破碎・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。



作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破碎後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。

1-10-4

(つづき)

(2) クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。

クレーン規格
相吊クレーン規格

- ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25 t 吊
- ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35 t 吊
- ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型45 t 吊
- ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50 t 吊
- トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100 t 吊
- トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120 t 吊
- トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160 t 吊
- トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200 t 吊
- トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360 t 吊

(3) 相吊クレーンの有無による区分は、以下のとおりとする。

相吊クレーンの有無

- 有り
- 無し

(4) DID 区間の有無による区分は、以下のとおりとする。

DID 区間の有無

- 無し
- 有り

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場・防護・ベント等			「第3編（道路編）4. 4 鋼橋架設工及び4. 5 仮設工」参照
現場発生品運搬	回		必要な場合別途計上

注) 現場発生品の運搬をする場合は、質量 (t) についても算出する。

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

現行どおり

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

工 種	コンクリート削孔工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

10.4 コンクリート削孔工

1. 適用

コンクリート構造物の削孔(さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等)作業に適用する。

2. 数量算出項目

削孔数を区分ごとに算出する

3. 区分

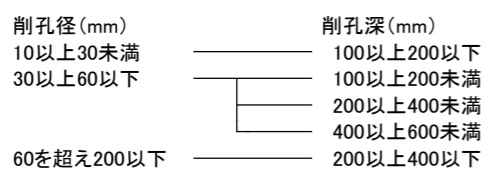
区分は、削孔径(mm)、削孔深(mm)とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	削孔径(m)	削孔深(m)			
コンクリート削孔工	○	○	孔		

(2) 削孔径(mm)、削孔深(mm)

削孔径(mm)、削孔深(mm)は以下の区分に分類して算出する。



1-10-6

現行どおり

削孔機械における適用削孔径及び削孔深

削孔機械	電動ハンマドリル(38mm)	さく岩機[ハンドドリル(空圧式)]質量15kg級	コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン][簡易仕様型]最大穿孔径φ25cm
削孔径(mm)	10以上30未満	30以上60以下	60を超え200以下
削孔深(mm)	100以上200以下	100以上600以下	200以上400以下

2. 数量算出項目

コンクリート削孔(電動ハンマドリル38mm)、コンクリート削孔(さく岩機)、コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)の数量を区分ごとに算出する。

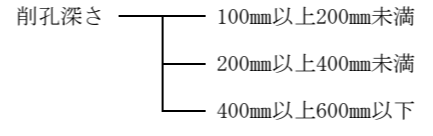
3. 区分

区分は、削孔深さ、削孔径とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	削孔深さ	削孔径			
コンクリート削孔(電動ハンマドリル38mm)	×	×	孔		
コンクリート削孔(さく岩機)	○	×	孔		
コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)	×	○	孔		

(2) 削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。



(3) 削孔径による区分は、以下のとおりとする。

積算条件	区分	参考(使用ビット径)
削孔径	60mmを超え64mm未満	64.7mm
	64mm以上77mm未満	77.4mm
	77mm以上90mm未満	90.8mm
	90mm以上110mm未満	110.0mm
	110mm以上128mm未満	128.5mm
	128mm以上160mm未満	160.0mm
	160mm以上180mm未満	180.0mm
	180mm以上200mm以下	204.0mm

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

積算上の注意事項

(控え頁)

工 種	堤防除草工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4章 河川維持工

4.1 堤防除草工

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の除草及び集草に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草(芝刈)、芝養生(抜取り)、薬剤散布は含まない。

2. 数量算出項目

除草の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は作業内容とする。

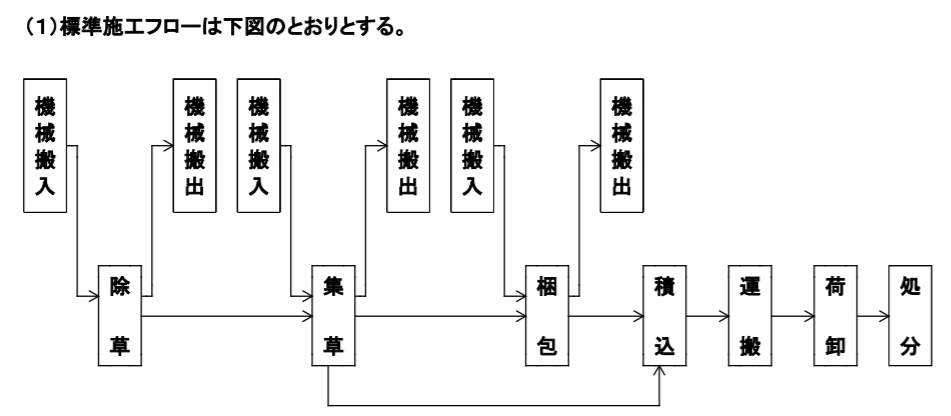
(1)数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	作業内容	単位	数量	備考
堤防除草		○	○	m ²		

(2)作業内容区分
除草面積を作業内容(除草, 集草, 梱包, 積込・荷卸)ごとに区分して算出する。
なお、運搬が必要な場合は、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。

(3)施工箇所毎に工法を区分して算出する。

4. 参考図



2-4-2

現行どおり

現行どおり

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の除草、集草、梱包、積込・荷卸及び運搬に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草(芝刈)、芝養生(抜取り)、薬剤散布は含まない。

2. 数量算出項目

除草、集草、梱包、積込・荷卸、運搬(堤防除草)、除草、集草(人力)、梱包、積込・荷卸(総合)、除草、集草(機械)、梱包、積込・荷卸(総合)の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、除草機種、飛散防止措置、集草機種、機種、運搬機種、梱包の有無、DID区間の有無、運搬距離(片道)とする。

(1)数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	除草機種	飛散防止措置	集草機種	機種	運搬機種	梱包の有無	DID区間の有無	運搬距離(片道)	単位	数量	備考
除草		○	○	○	×	×	×	×	×	×	m ²		
集草		○	×	×	○	×	×	×	×	×	m ²		
梱包		×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
積込・荷卸		×	×	×	×	○	×	×	×	×	m ²		
運搬(堤防除草)		×	×	×	×	×	○	○	○	○	m ²		
除草、集草(人力)、梱包、積込・荷卸(総合)		○	○	○	×	×	○	○	×	×	m ²		
除草、集草(機械)、梱包、積込・荷卸(総合)		○	○	×	×	×	○	○	×	×	m ²		

注) 1. 除草面積を作業内容(除草、集草、梱包、積込・荷卸)ごとに区分して算出する。
なお、運搬が必要な場合、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。
2. 施工箇所毎に工法を区分して算出する。
3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

(2)除草機種による区分は、以下のとおりとする。

- 除草機種
 - 大型自走式(ロングリーチ式)
 - 大型自走式(履帯式)
 - 遠隔操縦式(刈幅185cm)
 - 遠隔操縦式(刈幅120cm)
 - ハンドガイド式(刈幅150cm)
 - 肩掛式(カッタ径255mm)
 - 人力

(3)飛散防止措置による区分は、以下のとおりとする。

- 飛散防止措置
 - 有り
 - 無し

(つづく)

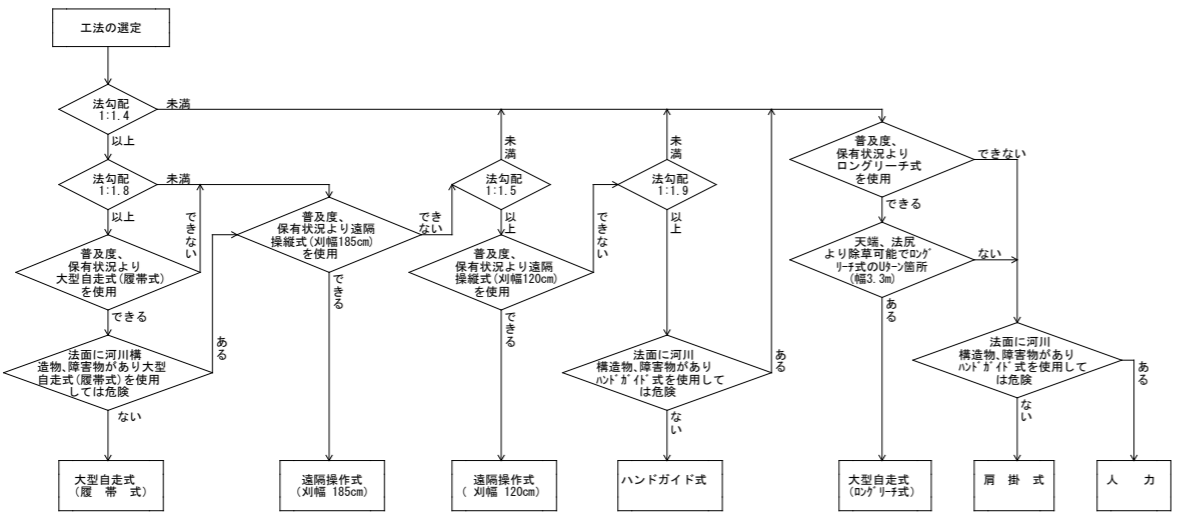
積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

工 種	堤防除草工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。



現行どおり

(つづき)

- (4) 集草機種による区分は、以下のとおりとする。
 - 集草機種
 - 大型自走式 (履带式)
 - 遠隔操縦式 (集草幅180cm)
 - 遠隔操縦式 (集草幅160cm)
 - ハンドガイド式 (集草幅200cm)
 - 人 力
 - (5) 積込・荷卸における機種による区分は、以下のとおりとする。
 - 機種
 - ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2 t積級) (梱包無し)
 - ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2 t積級) (梱包有り)
 - バッカー車 (回転式・積載容量 8 m³)
 - (6) 運搬機械による区分は、以下のとおりとする。
 - 機種
 - ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2 t積級)
 - バッカー車 (回転式・積載容量 8 m³)
 - (7) 梱包の有無による区分は、以下のとおりとする。
 - 梱包の有無
 - 梱包有り
 - 梱包無し
 - (8) DID 区間の有無による区分は、以下のとおりとする。
 - DID 区間の有無
 - 無し
 - 有り
4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

積算上の注意事項

(控え頁)

工 種	木杭打工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う新規追加	改正 現行	
------	-----------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行無し



4.7 木杭打工

1. 適用
河川における多自然型護岸工の施工で、杭長3.5m以下の木杭の打込みに適用する。

2. 数量算出項目
木杭打の数量を算出する。

3. 区分
区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	規 格	単 位	数 量	備 考
木杭打	○	本		

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

工種	砂防ソイルセメント工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う新規追加	改正 現行	
------	-----------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

現行無し

5.6 砂防ソイルセメント工

1. 適用
砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)の基礎及び中詰において施工位置周辺ヤードにて現地発生土とセメントをバックホウにて攪拌混合し、運搬、敷均し、締固めを行い、構造物を構築する砂防ソイルセメント工の施工に適用する。

2. 数量算出項目
粒径処理、攪拌混合、混合材料敷均し・締固めの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、粒径処理率(%)、セメント100m³当り使用量(t/100m³)とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	粒径処理率(%)	セメント100m ³ 当り使用量(t/100m ³)	単位	数量	備考
粒径処理	○	×	m ³			
攪拌混合	×	○	m ³			
混合材料敷均し・締固め	×	×	m ³			

注) 1. 粒径処理の土量は、粒径処理後の土量(ほぐし土量)である。
2. 攪拌混合の土量は、締固め状態における土量である。
3. 混合材料敷均し・締固めの土量は、締固め状態における土量である。

(2) 粒径処理率による区分は、以下のとおりとする。

粒径処理率(%)

- 40を超え45以下
- 45を超え50以下
- 50を超え60以下
- 60を超え80以下
- 80を超え100以下

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
砂防ソイルセメント(粒径処理土積込・運搬)	m ³		必要な場合別途計上

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 粒径処理率は次式による。
粒径処理率(%) = (粒径処理後土量) / (粒径処理前土量)

積算上の注意事項	(控え頁) 1/1
----------	--------------

工 種	半たわみ性(コンポジット)舗装工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う新規追加	改正 現行	
------	-----------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行無し

1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工

1. 適用
 開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。
 なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。

2. 数量算出項目
 セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	施工厚さ	浸透用セメント ミルク種類	単 位	数 量	備 考
セメントミルク浸透		○	○	m ²		

(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。

施工厚さ	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
	65mm以上75mm未満
	75mm以上85mm未満
	85mm以上95mm未満
	95mm以上100mm未満

浸透用セメントミルクの使用量 (100m²当り)

施 工 厚 さ	単 位	使 用 量
25mm 以上 35mm 未満	ℓ	630~882
35mm 以上 45mm 未満	〃	882~1,134
45mm 以上 55mm 未満	〃	1,134~1,386
55mm 以上 65mm 未満	〃	1,386~1,638
65mm 以上 75mm 未満	〃	1,638~1,890
75mm 以上 85mm 未満	〃	1,890~2,142
85mm 以上 95mm 未満	〃	2,142~2,394
95mm 以上 100mm 以下	〃	2,394~2,520

(つづく)

積算上の注意事項	(控え頁) 1/2
----------	--------------

工 種	半たわみ性(コンポジット)舗装工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化に伴う新規追加	改正 現行	
------	-----------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

	(つづき)									
	<p>(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>浸透用セメントミルク種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 超速硬型 — 普通型 — 早強型 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表層(車道、路肩部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p>	項目	単位	数量	備考	表層(車道、路肩部)	m ²		「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照	
項目	単位	数量	備考							
表層(車道、路肩部)	m ²		「第3編(道路編)1.3 アスファルト舗装工」参照							

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

工 種	しゃ音壁設置工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

2.6 しゃ音壁設置工

1. 適用

しゃ音壁支柱製作工及びしゃ音壁設置工に適用する。

2. 数量算出項目

施工延長、しゃ音壁支柱の鋼材質量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、材質とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規 格	材 質	単 位	数 量	備 考
遮音壁設置	○	○	○	m		
しゃ音壁支柱製作	○	×	×	t		

(2) 規格・材質区分

しゃ音壁設置は、規格、材質を明記する。
しゃ音壁支柱製作は、鋼材質量を規格(支柱取付部、支柱本体[直部・曲部])ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 遮音壁設置の内訳は下記の項目で算出する。

項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考
支柱アンカー	○	m			1m当りアンカー使用本数についても算出する。
支柱建込み	○	m			
土留板	○	m ²			100m ² 当り土留板使用枚数についても算出する。
下段パネル	○	m			
しゃ音板	○	m ²			100m ² 当りしゃ音板使用枚数についても算出する。
透光板	○	m ²			100m ² 当り透光板使用枚数についても算出する。
笠木	○	m			
外装板	○	m ²			100m ² 当り外装板使用枚数についても算出する。
落下防止索	○	個			
水切板	○	m			

3-2-33

現行どおり

2. 数量算出項目

支柱アンカー、支柱アンカー(材料費)、支柱建込、支柱(材料費)、土留板取付、土留板(材料費)、しゃ音板・透光板取付、しゃ音板・透光板(材料費)、落下防止索(材料費)、下段パネル(材料費)、笠木取付、笠木(材料費)、外装板取付、外装板(材料費)、水切板取付、水切板(材料費)の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

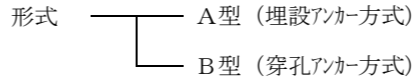
区分は、規格、形式、支柱間隔、設置高さ、支柱材料種類、施工区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区 分	規 格	形 式	支柱間隔	設置高さ	支柱材料種類	施工区分	単 位	数 量	備 考
支柱アンカー	×	○	○	○	×	×	×	m		
支柱アンカー(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m		注1)
支柱建込	×	○	○	○	×	×	×	m		
支柱(材料費)	○	×	×	×	○	×	×	t		注2)
土留板取付	×	×	×	○	×	×	×	m ²		
土留板(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m ²		注3)
しゃ音板・透光板取付	×	×	×	○	×	○	○	m ²		
しゃ音板・透光板(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m ²		注4)
落下防止索(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	個		
下段パネル(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m		
笠木取付	×	×	×	○	×	×	×	m		
笠木(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m		
外装板取付	×	×	×	○	×	×	×	m ²		
外装板取付(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m ²		注5)
水切板取付	×	×	×	○	×	×	×	m		
水切板(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m		

注1) しゃ音壁 1m当り使用本数も算出する。
注2) 鋼材質量を支柱材料種類ごとに区分して算出する。
注3) 土留板 1m²当り使用枚数も算出する。
注4) しゃ音板・透光板 1m²当り使用枚数も算出する。
注5) 外装板 1m²当り使用枚数も算出する。

(2) 形式による区分は、以下のとおりとする。



積算上の注意事項

(控え頁)

工種	しゃ音壁設置工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

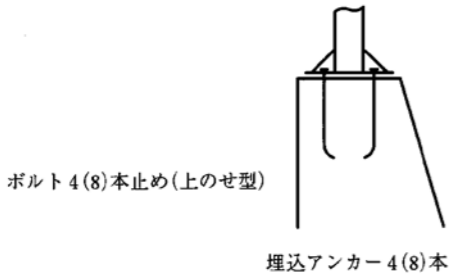
現行	改正	備考
----	----	----

- (1) アンカー形式
アンカー形式は以下の区分で算出する。
アンカー形式 — A型 (埋設アンカー)
 — B型 (穿孔アンカー)
- (2) 支柱間隔
支柱間隔は以下の区分で算出するのを標準とする。
支柱間隔 — 2m
 — 4m
上記によらない場合は、別途支柱間隔ごとに算出する。
- (3) 支柱高さ
支柱高さは以下の区分で算出する。
支柱高さ — 4m以下
 — 8m以下
上記によらない場合は、別途支柱高さごとに算出する。

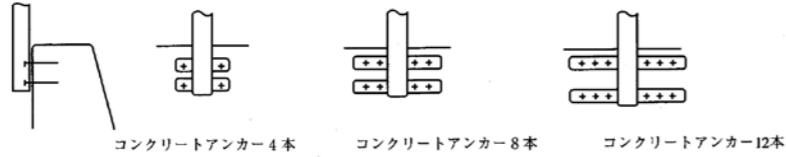
5. 参考図

支柱取付形式区分 (付図)

(1) A型



(2) B型



3-2-34

- (3) 支柱間隔による区分は、以下のとおりとする。
支柱間隔 — 2m
 — 4m
 - (4) 設置高さによる区分は、以下のとおりとする。
設置高さ — 4m以下
 — 4mを超え8m以下
 - (5) 支柱材料種類による区分は、以下のとおりとする。
支柱材料種類 — 取付部
 — 支柱本体 直部
 — 支柱本体 曲部
 — 各種
 - (6) 施工区分による区分は、以下のとおりとする。
施工区分 — しゃ音板
 — 透光板
 - (7) しゃ音板・透光板規格による区分は、以下のとおりとする。
しゃ音板・透光板規格 — しゃ音板 — 500×1,960×95
 — 500×3,960×95
 — 各種
 — 透光板 — 1,000×1,960×95
 — 1,000×3,960×95
 — 各種
 - (8) 落下防止索規格による区分は、以下のとおりとする。
落下防止索規格 — φ6*2500
 — φ6*4500
 — φ6*6500
 — φ6*8500
 — 各種
 - (9) 下段パネル規格による区分は、以下のとおりとする。
下段パネル規格 — W=255
 — 各種
4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

現行どおり

積算上の注意事項	(控え頁) 2/5
----------	--------------

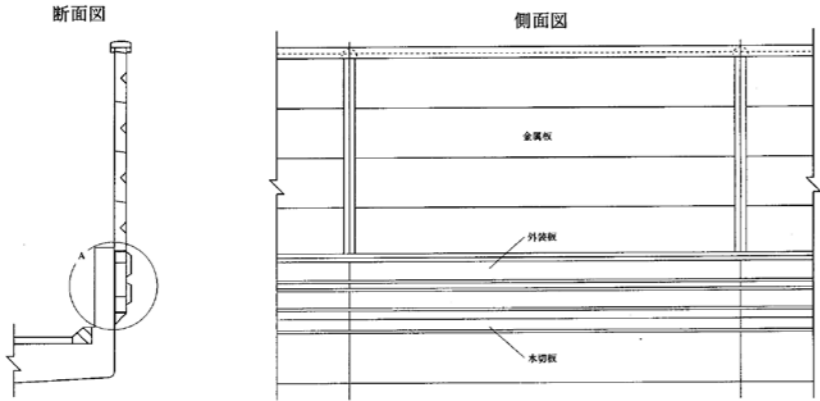
工種	しゃ音壁設置工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

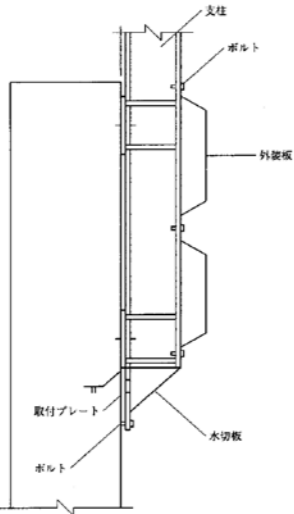
現行	改正	備考
----	----	----

6. 参考資料

①水切り板取付工 概念図



A部詳細図



※水切り板の設置高さは、施工基面からとする。

3-2-35

現行どおり

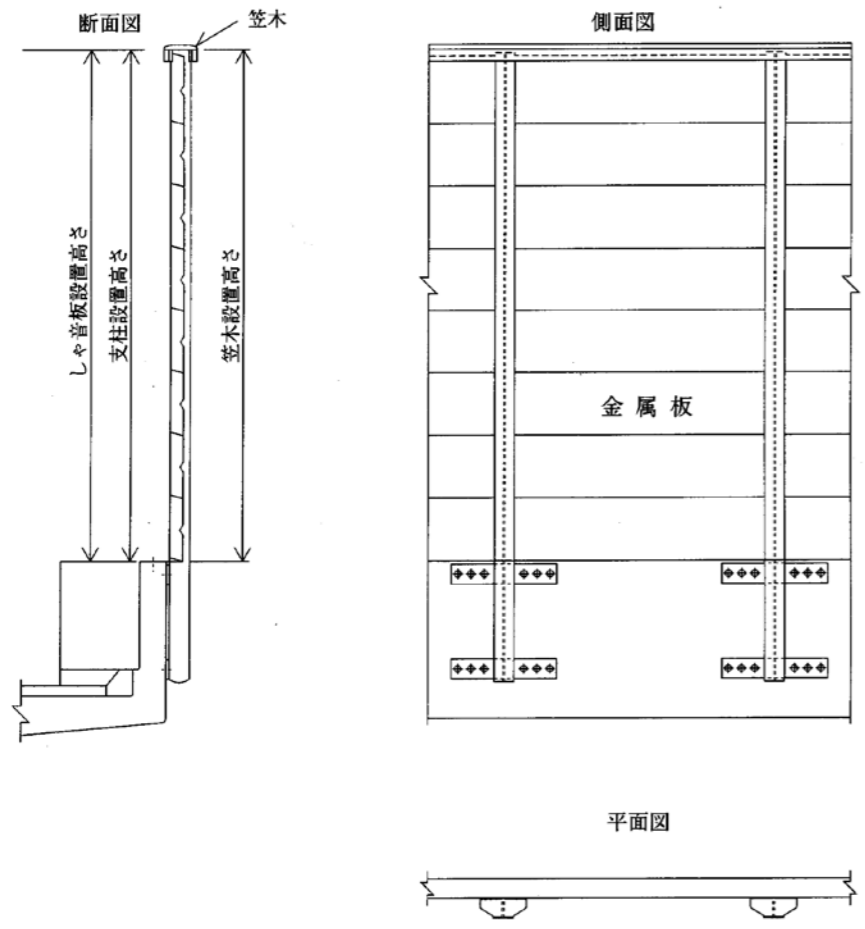
積算上の注意事項		(控え頁) 3/5
----------	--	--------------

工種	しゃ音壁設置工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

②笠木取付工 概念図



3-2-36

現行どおり

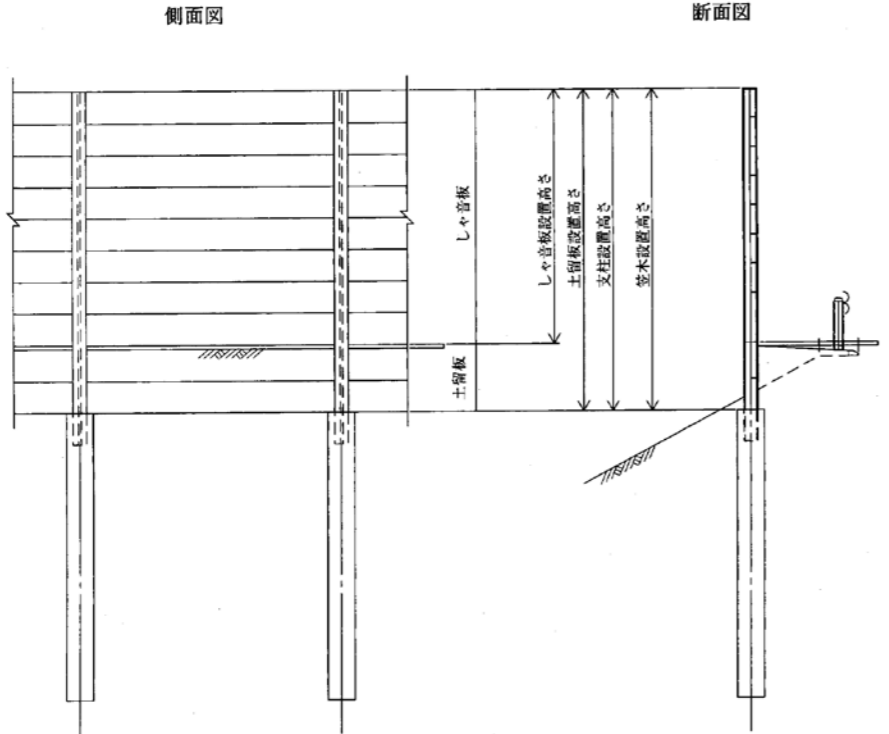
積算上の注意事項		(控え頁) 4/5
----------	--	--------------

工種	しゃ音壁設置工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 —— 現行	
------	---------------	----------------	--

現行	改正	備考
----	----	----

③土留板取付工 概念図



現行どおり

3-2-37

積算上の注意事項		(控え頁) 5/5
----------	--	--------------

工 種	組立歩道工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

2.7 組立歩道工

1. 適用

プレキャスト床版の支柱式(斜柱を含む)又は片持式組立歩道及び現場打設コンクリート床版の支柱式(斜柱を含む)組立歩道の組立・据付作業に適用する。

2. 数量算出項目

組立歩道の延長をを区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
組立歩道	○	m			
足場	×	掛m ²			

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 組立歩道

組立歩道は以下の区分で算出する。

形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱(受桁)間隔	幅員
支柱式	プレキャスト コンクリート製	鋼製 プレキャストコン クリート製又は鋼 製	鋼製	3m	1.0m
					1.5m
					2.0m
					2.5m
	プレキャストコンクリート製			5m	2.0m
片持式 (鋼製受桁形式)	プレキャスト コンクリート製	-	鋼製	3m	1.0m
					1.5m
					2.0m
片持式	プレキャスト コンクリート製	-	-	-	1.5m
					2.0m
支柱式	現場打	鋼製	鋼製	3m	1.5m
					2.0m

3-2-38

現行どおり

組立歩道組立据付 構造形式一覧

形式区分	床版形式	支柱形式	受桁形式	支柱(受桁)間隔	幅員
支柱式	プレキャスト コンクリート製	-	鋼製	3m	1.0m
			プレキャストコンクリート製 又は鋼製		1.5m
					2.0m
			2.5m		
	プレキャストコンクリート製			5m	2.0m
片持式 (鋼製受桁形式)	プレキャスト コンクリート製	-	鋼製	3m	1.0m
					1.5m
					2.0m
片持式	プレキャスト コンクリート製	-	-	-	1.5m
					2.0m
支柱式	現場打	-	鋼製	3m	1.5m
					2.0m

2. 数量算出項目

組立歩道組立据付、組立歩道(材料費)の数量を区分ごとに算出する。

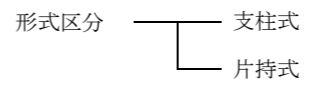
3. 区分

区分は、規格、形式区分、床版形式、支柱(受桁)間隔、幅員、作業内容区分とする。

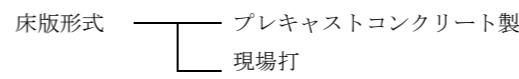
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	形式区分	床版形式	支柱(受桁)間隔	幅員	作業内容区分	単位	数量	備考
組立歩道組立据付	×	○	○	○	○	○	○	m		
組立歩道(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m		

(2) 形式区分は、以下のとおりとする。



(3) 床版形式による区分は、以下のとおりとする。



積算上の注意事項

(控え頁)

工種	組立歩道工
担当	8092国総研

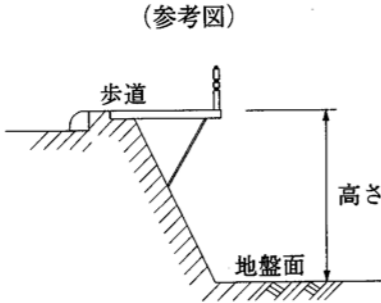
改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

(2) 足場
足場は原則として高さ（地盤面より床版までの高さ）が2m以上の場合に計上する。
足場は、単管傾斜足場を標準とし、「第1編（共通編）第11章仮設工 11.4足場工」により算出する。

(3) 支柱等の基礎及び現場打床版のコンクリート打設等は別途、算出する。

5. 参考図



現行どおり

(4) 支柱(受桁)間隔による区分は、以下のとおりとする。

支柱(受桁)間隔

- 3m
- 5m
- 無し

(5) 幅員による区分は、以下のとおりとする。

幅員

- 1.0m
- 1.5m
- 2.0m
- 2.5m

(6) 作業内容区分は、以下のとおりとする。

作業内容区分

- 支柱受桁、床版据付、高欄据付
- 支柱受桁、床版据付
- 高欄据付

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		「第1編（共通編）11.4足場工」参照
支柱等基礎	m ³		必要な場合別途計上
現場打床版コンクリート打設等	m ³		必要な場合別途計上

(注) 足場は原則として高さ（地盤面より床版までの高さ）が2m以上の場合に計上する。足場は単管傾斜足場を標準とする。

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

工 種	舗装版クラック補修工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.8 クラック補修工

1. 適用
 コンクリート舗装版のクラックの補修に適用する。

2. 数量算出項目
 補修延長を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、規格とする。

(1)数量算出項目及び区分一覧表

区 分	規 格	単 位	数 量	備 考
クラック補修	○	m		
クラック防止シート張り	○	m		

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1)クラック補修の注入材料の使用量は、必要量を計上する。なお、標準的な注入材料の使用量は次式による。

$G=100 \times g \times W \times D \times (1+K)$
 G:補修延長1000m当り数量(kg)
 g:注入材の比重(kg/l)
 W:補修幅(cm)
 D:補修深さ(cm)
 K:補修箇所による補正係数(+0.10)

3.8 舗装版クラック補修工

1. 適用
 コンクリート舗装版のクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。

2. 数量算出項目
 クラック補修、注入材(材料費)、クラック防止シート張、クラック防止シート(材料費)の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、規格とする。

(1)数量算出項目及び区分一覧表

区 分	規 格	単 位	数 量	備 考
クラック補修	×	m		
注入材(材料費)	○	m		
クラック防止シート張	×	m		
クラック防止シート(材料費)	○	m		

4. 数量算出方法
 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1)注入材(材料費)は、クラック補修延長(m)当りの質量(kg)も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。

$G = [g \times W \times D \times (1 + \text{割増率})] / 10$
 G:補修延長m当り数量(kg)
 g:注入材の比重(kg/l)
 W:補修幅(cm)
 D:補修深さ(cm)
 割増率は+0.23とする。

(2)クラック防止シート(材料費)は、諸雑費率を考慮した数量を算出する。なお、諸雑費率は+0.11とする。

3-3-13

積算上の注意事項	(控え頁) 1/1
----------	--------------

工種	道路除草工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

3.11 道路除草工

1. 適用

現道及び道路予定地の除草・集草・積込運搬の作業に適用する。

2. 数量算出項目

道路除草の面積を算出する。

3. 区分

区分は作業内容、施工場所とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	作業内容	施工場所	単位	数量	備考
道路除草	○	○	○	m ²		

(2) 作業内容区分

除草の面積を作業内容(除草, 集草, 積込運搬)ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 除草は施工場所毎に下記の工法に区分して算出する。

- 除草工法
 - 人力除草
 - 機械除草【肩掛式】(飛び石防護有り)
 - 機械除草【肩掛式】(飛び石防護無し)
 - 機械除草【ハンドガイド式】

(2) 運搬が必要な場合は、ダンプトラックを標準とし、処分場等の受入側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合はパッカー車とし、運搬距離(片道)(km)を算出する。

現行どおり

2. 数量算出項目

除草、集草、積込運搬、機械除草(肩掛式)・集草・積込運搬、機械除草(肩掛式)・集草、機械除草(ハンドガイド式)・集草・積込運搬、機械除草(ハンドガイド式)・集草の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工場所、作業形態、飛び石防護の有無、運搬機械選定、ダンプトラック運搬距離、パッカー車運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工場所	作業形態	飛び石防護の有無	運搬機械選定	ダンプトラック運搬距離	パッカー車運搬距離	単位	数量	備考
除草	○	○	○	○	×	×	×	m ²		
集草	×	×	×	×	×	×	×	m ²		
積込運搬	×	×	×	○	○	○	○	m ²		
機械除草(肩掛式)・集草・積込運搬	○	×	○	○	○	○	○	m ²		
機械除草(肩掛式)・集草	○	×	○	×	×	×	×	m ²		
機械除草(ハンドガイド式)・集草・積込運搬	○	×	×	○	○	○	○	m ²		
機械除草(ハンドガイド式)・集草	○	×	×	×	×	×	×	m ²		

注) 1. 運搬機械はダンプトラックを標準とし、処分場等の受入側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には、パッカー車を標準とする。
 2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。
 3. DID区間の有無に関係なく適用出来る。

(2) 除草は施工場所ごとに工法を区分して算出する。

(3) 作業形態による区分は、以下のとおりとする。

- 作業形態
 - 肩掛け式
 - ハンドガイド式
 - 人力除草

(4) 飛び石防護の有無による区分は、以下のとおりとする。

- 飛び石防護の有無
 - 有り
 - 無し

(5) 運搬機械選定による区分は、以下のとおりとする。

- 運搬機械選定
 - ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2 t積級)
 - パッカー車 (回転式・積載容量4 m³)

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

積算上の注意事項	(控え頁) 1/2
----------	--------------

工種	道路除草工
担当	8092国総研

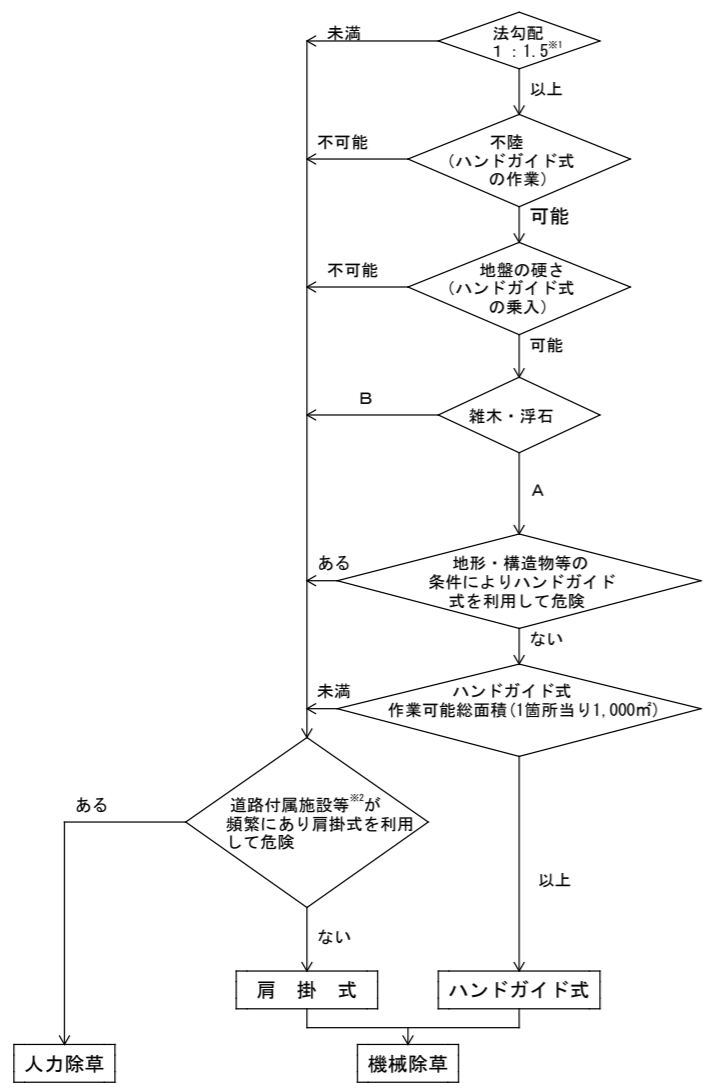
改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

5. 参考

除草工法の選定は、下記を標準とする。

工法の選定フロー



A: ほとんどないか、又は少しあるがハンドガイド式で除草可能
B: 頻繁にあり、ハンドガイド式で除草不可能

※1 法勾配については、現地の状況を確認のうえ適用するものとする。
※2 道路付属施設等とは、道路付属施設及び構造物の基礎等のことである。

3-3-17

現行どおり

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

工種	トンネル漏水対策工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

3.17 トンネル漏水対策工

1. 適用

既設道路トンネルの漏水対策のうち導水工法に適用する。

2. 数量算出項目

トンネル漏水対策工の範囲を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	単位	数量	備考
面導水工		○	m ²		
線導水工		○	m		

(2) 規格区分

面導水工、線導水工ごとに区分して算出する。

(3) 線導水は、導水材の種類により区分する

- 線導水材
 - 樹脂系導水材
 - ゴム系導水材
 - 伸縮性充填材

現行どおり

2. 数量算出項目

面導水、面導水（材料費）、線導水、線導水（材料費）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	規格	単位	数量	備考
面導水	×	m ²		
面導水（材料費）	○	m ²		
線導水	×	m		
線導水（材料費）	○	m		

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

積算上の注意事項		(控え頁) 1/1
----------	--	--------------

工 種	橋梁地覆補修工(撤去・復旧)
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

8章 橋梁補修工

8.1 橋梁地覆補修工(撤去・復旧)

1. 適用

地覆コンクリートの撤去・復旧に適用し、旧高欄の撤去を含む。

2. 数量算出項目

地覆とりこわし体積、鉄筋の質量、コンクリートの体積、足場の掛面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、材質とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

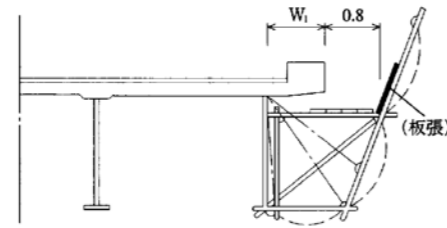
項目	区分	規格	単位	数量	備考
地覆とりこわし		×	m ³		
鉄筋		○	t		
コンクリート		○	m ³		
足場・防護		×	m ²		

4. 数量算出方法

(1) 足場の種類は、パイプ吊り足場を標準とし、足場面積は以下の方法により算出する。

足場面積A=W×L
 L:地覆補修延長(m)
 W:足場必要幅=W₁+0.8(m)
 W₁:外桁と地覆外縁間距離(m)

5. 参考図(足場・防護標準図)



3-8-2

現行どおり

1. 適用

旧高欄の撤去を含めた地覆コンクリートの撤去・修復に適用する。ただし、高欄の設置は含まない。

2. 数量算出項目

とりこわし、鉄筋、コンクリート、足場・防護の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋規格、コンクリート規格、養生工の有無、防護種類、1工事での足場使用回数、足場を架設している総月数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	鉄筋規格	コンクリート規格	養生工の有無	防護種類	1工事での足場使用回数	足場を架設している総月数	単位	数量	備考
とりこわし		×	×	×	×	×	×	m ³		
鉄筋		○	×	×	×	×	×	t		
コンクリート		×	○	○	×	×	×	m ³		
足場・防護		×	×	×	○	○	○	m ²		

(2) 養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。

養生工の有無 — 有り
 — 無し

(3) 防護種類による区分は、以下のとおりとする。

防護種類 — シート
 — シート+板張

(4) 1工事での足場使用回数による区分は、以下のとおりとする。

1工事での足場使用回数 — 1回
 — 2回

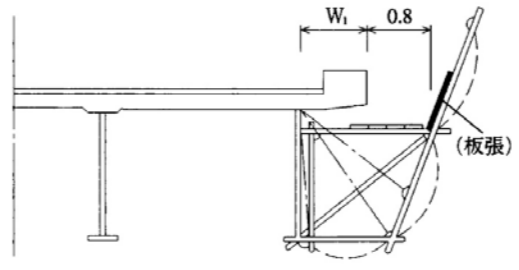
(つづく)

積算上の注意事項		(控え頁) 1/2
----------	--	--------------

工 種	橋梁地覆補修工(撤去・復旧)
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現 行	
------	---------------	-----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

	<p style="text-align: right;">(つづき)</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 足場面積は、次式により算出する。</p> <p>$A = W \times L$ A : 足場面積 (m²) W : 足場必要幅 (m) (参考図による) L : 地覆補修延長 (m)</p> <p>5. 参考図 (足場・防護標準図)</p>  <p>W W₁ + 0.8 (m) W₁ : 外桁と地覆外縁間距離 (m)</p>	
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

積算上の注意事項		(控え頁) 2/2
----------	--	--------------

工 種	現場溶接鋼桁補強工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

8.5 現場溶接鋼桁補強工

1. 適用

桁補強を目的とする部材取付等の現場溶接作業に適用する。

2. 数量算出項目

溶接延長(6mm換算長)を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考
溶接延長(6mm換算長)			m		

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 足場が必要な場合は、「第1編(共通編)11章仮設工 11.4 足場工」により別途算出する。
- (2) 溶接延長は、すみ肉溶接の脚長6mmの場合を標準とするが、これ以外の場合は下式により算出する。

$$\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$$

S:脚長(mm)
L:実溶接延長(m)

現行どおり

2. 数量算出項目

現場溶接鋼桁補強の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	規格・仕様	単位	数量	備考
現場溶接鋼桁補強	○	m		溶接延長(6mm換算長)

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 溶接延長は、すみ肉溶接の脚長6mmの場合を標準とするが、これ以外の場合は下式により算出する。

$$\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$$

S:脚長(mm)
L:実溶接延長(m)

積算上の注意事項	(控え頁) 1/1
----------	--------------

工 種	トンネル内装版設置工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

9.2 トンネル内装版設置工

1. 適用

トンネル内装版設置工に適用する。

2. 数量算出項目

トンネル内装版の設置面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

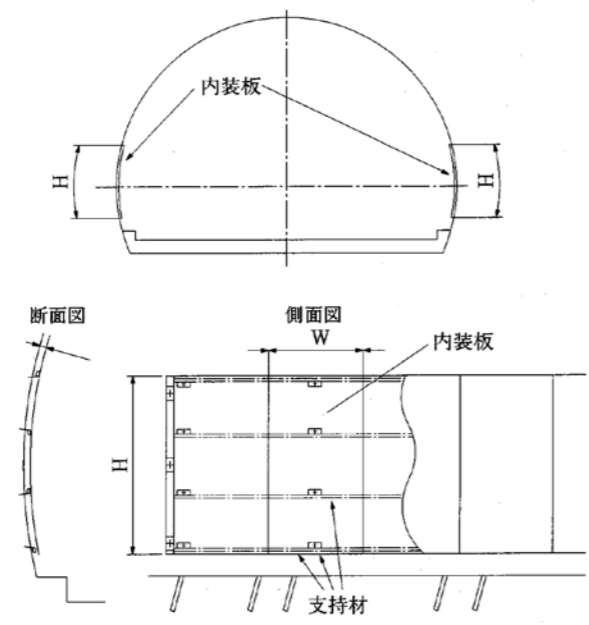
区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分	規 格	単 位	数 量	備 考
トンネル内装版	○	m ²		

注) 足場工(枠組・単管)及び高所作業車を使用する場合は、別途算出する。

4. 参考図(トンネル断面取付一般図)



3-9-12

現行どおり

1. 適用

トンネル内装版設置工の側壁用内装版のみに適用する。

2. 数量算出項目

トンネル内装版設置、トンネル内装版(材料費)の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	規 格	単 位	数 量	備 考
トンネル内装版設置	×	m ²		
トンネル内装版(材料費)	○	m ²		

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
足場	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照及び、必要な場合別途計上
高所作業車			必要な場合別途計上

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

5. 参考図(トンネル断面取付一般図)

現行どおり

積算上の注意事項

(控え頁)

工 種	情報ボックス工
担 当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

10.4 情報ボックス工

10.4.1 適用

1. 適用
情報ボックス工事に適用する。

10.4.2 舗装版破砕積込

アスファルト舗装版破砕積込の数量は、「第3編3.2 舗装版破砕工」により算出する。

(注) 舗装版切断が必要な場合は、「第3編3.3 舗装版切断工」により数量を算出する。
また、舗装版復旧が必要な場合は、「第3編1 舗装工」により数量を算出する。

10.4.3 土工

1. 適用
情報ボックス工事の土工に適用する。

2. 数量算出項目
床掘り、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、土質、施工形態とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	土質	施工形態			
床掘り	×	×	m ³		
埋戻し	○	×	m ³		
締固め					
残土処理	×	○	m ³		
埋設表示シート	×	×	m		

注) 床掘り及び残土処理数量は、地山数量とする。
また、埋戻し・締固め数量は、締固め後数量とする。

3-10-18

現行どおり

10.4.2 舗装版破砕

1. 適用
情報ボックス工事の舗装版破砕に適用する。
・舗装版破砕：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破砕及び積込作業の場合

2. 数量算出項目
舗装版破砕を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	単位	数量	備考
舗装版破砕		m ²		積込を含む

関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
舗装版切断	m		「第3編(道路編)3.3 舗装版切断」参照
舗装版復旧	m ²		「第3編(道路編)1 舗装工」参照

10.4.3 土工

1. 適用
情報ボックス工事の土工に適用する。
・床掘り：基面整正を含む床掘り作業の場合
・埋戻し：埋設表示シートの設置を含む埋戻し・締固め作業の場合

2. 数量算出項目
床掘り、埋戻し、中埋材(材料費)、埋設表示シート(材料費)の数量を区分ごとに算出する。

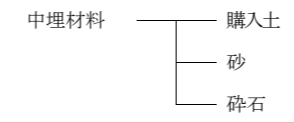
3. 区分
区分は、規格・仕様、中埋材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		中埋材料	単位	数量	備考
	規格・仕様					
床掘り	×	×		m ³		
埋戻し	×	×		m ³		
中埋材(材料費)	×	○		m ³		
埋設表示シート(材料費)	○	×		m		

注) 床掘り数量は、地山数量とする。
また、埋戻し数量は、締固め後数量とする。

(2) 中埋材料の区分は、以下のとおりとする。



積算上の注意事項

(控え頁)

工種	情報ボックス工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

(2) 土質区分
土質による区分は、以下のとおりとする。

```

土質
├── 土砂
├── 中埋砂
└── 砕石類

```

10.4.4 基礎工

数量は、「第1編（共通編） 4章コンクリート工 4.1 コンクリート工及び 9章基礎工 9.1 砕石基礎工」により算出する。

10.4.5 管路材設置

1. 適用
本体管及びさや管等の設置に適用する。

2. 数量算出項目
本体管及びさや管の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、施工区分、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施工区分	規格 ・仕様	単位	数量	備考
本体管延長	○	○ 注1)	m		材質を明記する。
さや管延長	○	○ 注2)	m	注3)	さや管条数及び材質を明記する。
スリーブ	○	○	個		
伸縮継手	○	○	個		

注1) 本体管はコンクリート製、合成樹脂製又は鋼製に区分して算出する。
注2) さや管はVU管類、FEP管類に区分して算出する。
注3) さや管延長は、さや管条数を乗じない設置延長とする。
(3条のさや管をそれぞれ100mずつ設置しても、数量は100mとする)

3-10-19

10.4.4 基礎工

1. 適用
情報ボックス工の基礎工に適用する。
・基礎材：基礎材の厚さが20cm以下の場合

2. 数量算出項目
基礎材の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、砕石の厚さ、砕石の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	砕石の厚さ	砕石の種類	単位	数量	備考
基礎材	○	○	m ²		

10.4.5 管路材設置

1. 適用
情報ボックス工の本体管及びさや管等の設置に適用する。
・埋設部管路材設置：埋設部における管路材の設置作業の場合
・露出部管路材設置：トンネル部を除く露出部における本体管及びさや管の設置作業の場合

2. 数量算出項目
埋設部管路材、露出部管路材、スリーブ（材料費）、伸縮継手（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、規格・仕様、本体管の材質、さや管の材質、設置区分、さや管の条数、高所作業車による作業とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	規格・仕様	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	さや管の条数	高所作業車による作業	単位	数量	備考
埋設部管路材設置	○	○	○	○	○	×	m		
露出部管路材設置	○	×	×	×	○	○	m		
スリーブ（材料費）	○	×	×	×	×	×	個		
伸縮継手（材料費）	○	×	×	×	×	×	個		

(2) 本体管の材質による区分は、以下のとおりとする。

```

本体管の材質
├── コンクリート製
├── 合成樹脂製
└── 鋼製

```

積算上の注意事項		(控え頁) 2/3
----------	--	--------------

工種	情報ボックス工
担当	8092国総研

改正理由	施工パッケージ化による改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

(2) 施工区分
埋設部・露出部毎に算出する。
注) 露出部とは、管路を構造物等に添架して設置する部分を指す。

10.4.6 ハンドホール設置

1. 適用
ハンドホール、蓋等の設置に適用する。

2. 数量算出項目
ハンドホール及び蓋を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考
ハンドホール		○	個		
蓋		○	枚		
固定板		○	枚		
支持金具		○	個		

注) ハンドホール数量は、組立式のものは組（設置箇所）数量を算出する。

10.4.7 仮設工

仮設工の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工により算出する。なお、軽量鋼矢板による土留、路面覆工等による仮設工の数量は、「第3編（道路編）10章共同溝10.3電線共同溝（C.C.BOX）工」により算出する。

(3) さや管の材質による区分は、以下のとおりとする。

さや管の材質

- VU・FEP管類
- VU管類
- FEP管類

(4) 設置区分は、以下のとおりとする。

設置区分

- 本体管設置
- さや管設置
- 本体管及びさや管設置

(5) 高所作業車による作業による区分は、以下のとおりとする。

高所作業車による作業

- 可能（標準）
- 不可能

10.4.6 ハンドホール設置

1. 適用
情報ボックス工事のハンドホール、蓋等の設置に適用する。
・ハンドホール設置：ハンドホール設置（支持金具、蓋、固定板の設置を含む）の場合

2. 数量算出項目
ハンドホール、ハンドホール蓋（材料費）、ハンドホール固定板（材料費）、支持金具（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、規格・仕様、クレーン機種とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格・仕様	クレーン機種	単位	数量	備考
ハンドホール		○	○	個		
ハンドホール蓋（材料費）		○	×	枚		
ハンドホール固定板（材料費）		○	×	枚		
支持金具（材料費）		○	×	個		

(6) クレーン機種による区分は、以下のとおりとする。

クレーン機種

- トラック（クレーン装置付）4t積・2.9t吊
- ラフテレーンクレーン 4.9t吊
- ラフテレーンクレーン 16t吊
- ラフテレーンクレーン 20t吊
- ラフテレーンクレーン 25t吊

現行どおり

3-10-20

積算上の注意事項		(控え頁) 3/3
----------	--	--------------